

平成30年度 第2回鮫川村再生可能エネルギー推進協議会議事録

- 開催日時 平成30年8月29日（水曜日）午後2時00分
- 開催場所 鮫川村役場2階 正庁
- 構成員の現在数 24名
- 出席した構成員数 19名
- 出席した構成員の氏名
 - ・ 鮫川村議会 星 一彌（議長）
 - ・ 鮫川村議会 北條 利雄（特別委員会委員長）
 - ・ 鮫川村議会 堀川 照夫（青生野地区）
 - ・ 農林漁業団体 佐藤 武男（東西しらかわ農業協同組合 鮫川支店長）
 - ・ 農林漁業団体 森 元良（東白川郡森林組合常務理事）
 - ・ 農林漁業団体 蛭田 昌一（久慈川第一漁業協同組合理事）
 - ・ 関係住民 白坂 伸治（青生野行政区長）
 - ・ 関係住民 岡部 明（西谷地牧野組合長）
 - ・ 関係住民 岡部 一良（地元発電事業会計）
 - ・ 関係住民 生田目忠一（青生野桑園組合長）
 - ・ 関係住民 平久江三治（赤小名牧野組合長）
 - ・ 関係住民 鈴木 清孝（江堀牧野組合長）
 - ・ 関係住民 森田 俊栄（反谷地牧野組合長）
 - ・ 関係団体 松本 一治（鮫川村行政区長会長）
 - ・ 関係団体 前田 勝之（鮫川村商工会長）
 - ・ 鮫川村農業委員会 鷺野谷弘行（会長）
 - ・ 学識経験者 鈴木 治男（地域づくり有識者）
 - ・ 鮫川村 大樂 勝弘（村長）
 - ・ 鮫川村 白坂 利幸（副村長）
- 出席した関係者の氏名
 - ・ 発電事業者 佐藤 厚範（オリックス株式会社）
 - ・ 発電事業者 吉田 敦（オリックス株式会社）
 - ・ 発電事業者 吉見 隆寛（オリックス株式会社）
 - ・ 鮫川村 鈴木 守弘（鮫川村地域整備課長）
 - ・ 鮫川村 渡邊 敬（鮫川村農林商工課長・農業委員会事務局長）
 - ・ 鮫川村 鈴木 隆寛（鮫川村地域整備課長補佐）

1 開会【地域整備課長】午後2時00分

2 会長挨拶【要旨】

それでは一言ご挨拶を申し上げます。

第2回鮫川村再生可能エネルギー推進協議会を開催したところ、皆さんお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

また、6月1日の第1回会議開催から2か月ほど経過しておりますが、事務的な事情もありまして本日の開催となりましたが、ご理解をいただきたいと思ひます。

本日の協議事項ですが、再生可能エネルギー発電の促進による農山漁村活性化基本計画（素案）について、発電事業者の設備整備計画について委員の皆さんに協議していただく予定でありますので、是非とも再生可能エネルギー発電事業の実現と、地球の温暖化防止に協力しながら、鮫川村の自然環境を守り次の世代に引き継いでいきたいので、委員の皆様のご意見と、再生可能エネルギー推進にご協力をいただけるようお願い申し上げます。

3 協議事項【議長：大楽会長】

- (1) 再生可能エネルギー発電の促進による農山漁村活性化基本計画（素案）について
鈴木課長補佐が配布資料に沿って説明。
質疑の概要は次のとおり。

Q： (4)産業の農業分野の一文を次のように変更してはどうか？【学識経験者 鈴木氏】

近年は、農業就業者の高齢化と兼業化の進行とあいまって畜産農家の多頭化により農業生産額は横ばい状態にある。を、近年は、農業就業者の高齢化と兼業化の進行とあいまって畜産農家の規模拡大により農業生産額は横ばい状態にある。

A： 現状としては、畜産農家が頑張ってきたからこそ、村の農業生産額が横ばい状態であるので、畜産農家の多頭化ではなく、畜産農家の規模拡大という表現に変更したいと思います。【大楽会長】

Q： 3の整備を促進する区域の設定ですが、農地法、農振法、再エネ法も事前に調べましたが、この地域は農振地域であり、農地の転用はかなり難しいのではないかと。そこで、県との協議等について現在どのようになっているのか？【学識経験者 鈴木氏】

A： 平成26年に組合から要望があり、県の農業委員会まで行ったが、事業者がしっかりしておらず事業着手まで至らなく、今日に至っている状況です。そんな中、今回オリックスさんが事業に名乗りを上げたところ、地元組合でも協議したが事業者がしっかりしているので、この第1種農地の転用など非常に難しいハードルを越えられるのではないかと。組合員総意のもとに青生野地区の誘致を決断した。現在は、県との事前協議には至っていない状況である。【大楽会長】

Q： 5ページの9番では設備の撤去及び原状回復について、5行ほどで記載されているが設備整備事業者が費用を負担して撤去するということが、資金調達やパネルを撤去する際の資金をどのようにするのか？また、パネルを撤去する際は、産業廃棄物として取り扱われると思うが、最終的な処分方法についても分かる範囲で説明いただきたい。【鮫川村議会 北條氏】

A： 処分費用については、基金を積み立てして処分費用の確保を指導していく。また、撤去時有害物なのか廃棄物なのか有害物質を含む廃棄物なのか、現時点では処分方法がはっきりしている訳ではないようです。詳しくは、オリックスさんより説明をお願いします。【大楽会長】

Q： 青生野地区は、やませや冬期間は降雪の影響を受けやすい地域なので、発電量がかなり減少すると思われるが、現時点で調査しているのか、今後の課題になるのか？【農業委員会 鷲野谷会長】

A： 設備整備計画との関連性があるので、説明後に回答いたします。【オリックス（株） 吉見氏】

(2) 設備整備計画説明について

オリックス(株)吉見課長代理が配布資料に沿って説明。

質疑の概要は次のとおり。

Q： 村として地域貢献金の扱いと言いますか、イメージがあればお聞かせ願いたい。【オリックス(株)吉見氏】

A： 年間500万、20年ですと1億円の使い方ですが、農業振興、地域振興、農村景観を保つための資金としたいと考えている。現在、村では大豆の振興に年間3千万ほどの予算を必要としているが、この大豆は直売所の主力商品でもあり、今後も大豆の振興を図りながら、鮫川でしか買えない商品の開発や更なる農業の振興に使わせていただきたいと思いますと考えております。

また、現在考えているのは、直売所の場所です。もっと広い土地に移転し、その付近には緊急時の避難所も整備できればと考えております。さらには、子供たちが安心して遊べる広場など、子育てに関係した小さな施設でも整備したいと考えております。【大楽会長】

Q： 地域貢献金を青生野地区の地域活性化に何割かを使う必要性があるのではないかと？

例えば、青生野地域の景観を良くすることが、将来に亘って大事になってくるものと考えているが、景観を良くするための専門家の派遣であったり、苗木の購入に対する助成措置を区に対して行っていくと言うのも必要ではないかと？【学識経験者 鈴木氏】

Q： 協議開催は今回で2回目となったが、いつ頃実施に移れるのか？【久慈川第一漁業協同組合 蛭田理事】

Q： 皆さんからいろいろな意見が出されたが、村では基金化することなので、青生野小学校活用も含めて、青生野地区の振興を別な場を設けて、今後協議する必要があるのではないかと？【鮫川村議会 北條氏】

A： この場で全部確定と言うことは想定しておりませんし、議題提起としていろいろな話が出たわけで、村が作成する計画素案は当然村主導できっちり作る必要はあると思います。【オリックス(株)吉見氏】

Q： 設置する太陽光パネルに、どのような有害物質が含まれているか分かりませんが、リサイクルできる物なのか、産業廃棄物として処理されるのか？【鮫川村議会 北條氏】

A： 基本的な概念としては、設備を撤去する場合や発電期間中にパネルが破損した時も、法律に基づいて適正な処理をすることとなります、リサイクルが可能であればリサイクルもしていきたい。【オリックス(株) 吉見氏】

(3) その他

Q： 基本計画の中で、基本的なことは記載されているが、基金化するという様に記載されている部分で、具体論が記載されていないと説得力に欠けるのではないかと？【学識経験者 鈴木氏】

A： 地域貢献金の使い道はいつでも軌道修正できるので、そんなに心配する必要はないと思うが、この事業が、本当に実現できるか心配しているところです。【大楽会長】

Q： 農用地を白地にするには、具体論があつて地域がこのように変わると言った様なことが説明でき

ないと、なかなか納得させることができないのではないか？【学識経験者 鈴木氏】

A： 鈴木治男氏からも意見を聴取しながら、国・県が納得できる内容にしていきたいと考えていますので、協力の程よろしくをお願いします。【大楽会長】

Q： 基本計画そのものは、素案として出された物ではあるが、先進事例があり作成要領等に沿った形で作成されていると思う。村がさらにどうするといった事や具体的な内容を煮詰めるといった事は必要であると思うが、この計画の中では、多少の文言訂正で必要な部分は網羅されていると思う。

【鮫川村議会 北條氏】

A： 転用の許可を貰う以上は、現状を理解してもらう必要はあるし、原発事故さえなければこの様な話にはならなかったと思う。【大楽会長】

4 閉会【地域整備課長】午後3時49分